

2025年1月24日山田池公園で観察した植物

作；岡田弘

ユリノキ（百合の木）モクレン科ユリノキ属＊花期＝5～6月

花の形状が百合の花にも似ていないのに何故ユリノキと言うか不思議に思われたことありませんか？**名前の由来**＝学名有るリリオデンドロン トウリビフエラからの由来、ユリを表すリリオの木の意味があるデンドロンを訳して和名をユリノキとした。別名で葉の形状からヤッコダコノキ、又、花が上を向いて咲くチュリップに似ている所から、チュウリップリーとも、北アメリカ原産の落葉高木、大きいものでは30mにもなる、日本には明治時代に渡来街路樹や公園樹と植えられている。材は建築、家具などに使われる。

＊花言葉＝清潔・強い味方。



ローバイ（蠟梅）ローバイ科ローバイ属＊花期＝1～2月

名前の由来＝花卉の質感が蠟でコーティングしたようだからロウ、バイは梅の花に似ている所から。又の説、花の咲く時期が臘月（ロウゲツ）と呼ばれる太陽暦12月の頃だから臘月の蠟と梅とを組み合わせてローバイとした。梅となっているので梅の仲間と思われがちですが、別種です、ウメはバラ科サクラ属ですがローバイはローバイ科ローバイ属ですので、原産地は中国、江戸時代に観賞用として渡来、花が甘い優しい香りがするので庭園樹として多い、ローバイは花の中心が赤紫色、ソシンローバイは中心が白か黄色。その他に福寿ローバイ、実生ローバイなどがある。種子はアルカロイドの毒がある。＋花言葉＝慈愛

右、ローバイ



ソシンローバイ

クロガネモチ（黒鉄鰐）モチノキ科モチノキ属？花期＝5～6月＊雌雄異株

名前の由来＝葉が乾燥すると黒い鉄の様な色になる、緑の葉を火であぶるとやはり黒い鉄色になる所からクロガネモチ（黒鉄鰐）となった、モチはこの木の樹皮を細かく碎き水洗いして残った水に溶けない粘性物で鳥もちをつくったので、大量に作る時は、春、夏に採集した樹皮を洗い網に入れ流水に秋まで漬けて置き、残った繊維質を白で細かく碎き柔らかい塊になった物を更に流水で洗い作る。演技の良い木と言われていて、クロガネのガの点々を取ると、黒金持ちとなり、「苦労がない金持ち」となる。モチの木の実は大きい、花言葉＝仕掛け・執着・寛容・魅力



イチゴノキ（苺の木）ツツジ科イチゴノキ属＊花期＝11～12月

標準の花期は11～12月ですが今白いドウダンツツジの様な花が咲いていました。**名前の由来**＝苺の様な赤い実をつける所からの命名。果実は黄色からピンク、赤色と変化して美しい、生食で食べることが出来るが美味しくなく、ジャムや果実酒などに使える。原産地は地中海沿岸、日本には明治時代に観賞用として渡来、実が美しいところから庭園樹として植栽。

常緑の中木、京都植物園にも1本ある。＊花言葉＝あなただけを愛します・後の楽しみ・節約



メラレウカ：フトモモ科ホソバノブラシ属＊花期＝6～12月

和名は無くメラリイカとは「黒く白い」との直訳らしい。幹が黒く枝が白いところからと言われるが、幹は樹皮がボロボロに剥けて汚いの。別名「テイツリー」と言われる、これはイギリスの探検家のキャプテンクックがこの木の葉を煮てお茶として飲んでいたので、原産地のオーストラリアの原住民もやはりお茶として利用していた。葉は柑橘系の良い香りがするのでハーブティの原料やアロマオイルの原料としてが利用されている、オイルにはペルペネン4オイルが抗菌作用があるといわれている。白花は6～7月ピンク系は6～12月が花期、＊花言葉＝清潔・強い味方



イヌビワ（犬枇杷）クワ科イチジク属＊花期＝4～5月＊雌雄異株

名前の由来＝果実がビワに似ていて、枇杷より不味いのイヌがついてイヌビワとなった。現在食べられているイチジクが江戸時代にイラン、中国を経て渡来した、それまでは本種がイチジクと言われていた。別名をヤマビワとも言う、雌木の果実は甘みがあり食べることが出来るが雄木の果実は硬くて食べれない。イヌビワコバチがいて雄の果実の実に散乱して孵化する、孵化した雄は雌と交尾して果実から出ることもなく一生が終わる、メスは孵化すると自由に出入りして雌木に入ることが出来るが雌花の中では産卵が出来ないので雄実に戻り産卵する、

